

2010-11 年度テーマ



国際ロータリー会長：レイ・クリンギンスミス

第 2570 地区ガバナー：西川 武重郎

会長：鯨井 邦男

会長エクト：加藤 睦夫

副会長：村山 廣道

幹事：堀越 真

副幹事：庄内 邦雄

SAA：加藤 睦夫

TEL：048-525-7907 FAX：048-526-2471

URL：http:// www.kuma-west-rc.com/ E-mail：post@kuma-west-rc.com

No.16

第 1615 回 例会

(H22.11.22)

司会 森村 等 SAA  
 点鐘 鯨井会長  
 ソング それでこそロータリー

## 来賓

栗原 和江 様 (熊谷ピンクリボンの会)  
 大久保由美子様

## 会長挨拶

鯨井会長



本日は、くまがやピンクリボンの会代表栗原様、大久保様に卓話お願いいたしました。お忙しい中お越しいただきありがとうございます。

本日は 11 月 22 日 いい夫婦の日です。朝のテレビで、75%の方がいい夫婦と答えていました。皆様のご家庭はいかがでしょう。仲良く毎日を過ごしたいものです。

11 月 13 日、職業奉仕セミナーに岡委員長と出席いたしました。出席者全員のロータリー歴、職業、職業奉仕についての発表があり、有意義なセミナーでした。クラブ内でも、こうした発表会を行いたいと思います。詳しい内容は、後日岡委員長にお願いしたいと思います。

14 日は吹上クラブとの合同の家族バス旅行、すばらしいショーと食事と大変楽しく過ごすことができました。親睦委員会の皆様ありがとうございました。

18 日は第三回会長幹事会でした。地区よりブライダル委員会の方がこられ、現状説明と、多くの方の登録要請がありました。

また、澤田ガバナー補佐より、今年度の IM のテーマ「利他の心で、地域の未来を語る」が発表され、各クラブでの奉仕活動の実例紹介にて、ロータリー活動の理解と広報を目標とされました。

我がクラブも良い発表ができるよう協力お願いいたします。

## 幹事報告

堀越幹事

1. ロータリー財団 国際親善奨学生募集ポスター掲示の依頼

派遣年度

2012 年 7 月～2013 年 6 月

支給金額 一人当たり

27,000 U S ドル

募集人員 4 名～5 名

応募資格 詳細は別途



2. 12 月のロータリーレートは 1 ドル= 82 円です。

3. 熊谷警察署より年末年始特別警戒出陣式への臨席ご案内

12 月 1 日 (水) 午後 2 時 30 分より 本町コミュニティ広場にて開催

4. 骨髄バンク協議会ニュースを回覧します。ハローキティ・シールカレンダーをご利用ください。

## 委員会報告

### 出席報告

加藤 睦夫委員

例会日	総数	出席免除	欠席者	出席率	メークアップ
11/22	21	6 (2)	4	87.5%	1

### ニコニコBOX委員会

ニコニコボックス拠金報告

加藤 睦夫委員

例会日		件数	金額
11/22	本日の報告	10 件	10,000 円
	本年度累計	126 件	179,000 円

鯨井 邦男さん

親睦委員会の皆様、先日のバス旅行楽しませていただきありがとうございます。

栗原様、大久保様、本日はありがとうございます。よろしく願いいたします。

田代 充雄さん

先日の家族親睦旅行、楽しく行ってまいりました。感動の連続でした。お奨めものです。

栗原さん、大久保さん、本日は卓話の講師ありがとうございます。楽しみにしています。

岡 千秋さん

熊谷ピンクリボンの会、栗原様、大久保様、本日は有難うございました。

橋本 篤史さん

〃

吉田 正己さん

〃

森村 等さん

和数奇ホテルの森村です。クリスマスケーキのパンフを配布いたしました。おせちと合わせてよろしく願いいたします。

先日は楽しく感動的なシルク・ドゥ・ソレイユありがとうございました。

加藤 睦夫さん

ピンクリボンの会、栗原様、大久保様、本日はよろしく願い申し上げます。

堀越 真さん

所用の為、早退いたします。大変申し訳ありません。

## 卓話

くまがやピンクリボンの会

栗原 和江 様  
大久保由美子 様

### 「乳がん予防」について



栗原 和江 様



大久保由美子 様

### 「大切なひとの笑顔を、失いたくないから」

私は乳がんと共生し3年余りになります。

癌の告知、病院の選択、医師の選択、検査、カルテ開示、セカンドオピニオン、癌の代替療法（術前の温熱療法や漢方薬）、抗がん剤治療、放射線治療、リハビリ・・・etc

体験したさまざまなことが少しでもお役に立てたらとこの会を熊谷に立ち上げました。もう一つは同じ病を持つ人と情報を共有できること。どんな小さなことでも知らないより、知っている方がベストだと思いますし、選択肢も広がります。なによりメンタル的に救われる部分が大きいかと思います。それはまた「希望」を共有できることでもあるからです。きっとこれはキャンサー・ギフト（がんからの贈り物）だと思ったからです。

現在、「くまがやピンクリボンの会」会員は90名です。その中で患者は約3割、他の7割の方が趣旨に賛同してくださった一般市民の方、男性もたくさん入ってくださっています。

活動のビジョンは「乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える」というもので、「いつ自分に起こるかかわからない」、乳がんを自分の問題として意識してほしいというものです。そして目的は検診率のアップ。マンモグラフィーによる検診率はアメリカでは70%、フランスでは88%で

すが日本では約 20%に過ぎません。わが町の検診率はさらに低く、昨年度は 10.7%でした。これを 30%台にあげて「日本で一番乳がん検診率の高いまち」にしたいと思っています。

乳がんは個人だけの問題ではありません。「ママが元気！」「妻が元気！」「母親が元気！」「娘が元気！」「パートナーが元気！」であることが周りのひとの幸せに繋がりますから。またこのリボンムーブメントが、「街」と「ひと」を繋ぐというコンセプトになればと思います。「ひとが元気」なら「街」が元気であると思います。

### **ピンクリボン (Pink ribbon) とは、乳がんの撲滅、検診の早期受診をおすすめするシンボルです。**

1980 年代、アメリカの小さな町で、乳がんが死亡した女性の母親が、この女性の娘である実孫に、同じ悲しみを繰り返さないよう、願いを込めて手渡したものがピンク色のリボンだったことは発端と云われています。

乳がんを正しく知り、考えるきっかけをこの町の住人に広めたのがこのリボンでした。

その後、全世界的に広まりました。

乳がんは、日本人女性の 16 人に 1 人が患っています。

がん患者たちは自らのことをサバイバー (survivor・生存者、経験者) と呼びます。

ペイシェント (患者) は、外科的手術や化学療法 (抗がん剤) を無事に終えても、再発や転移の心配から解放されるのに最低で 5 年。乳がんは十年戦争とも言われています。

乳がんは怖い病気ですが、早期発見・早期治療をすれば、I 期 (しこりが 2 cm 以下) の場合で 10 年生存率は 90%と高いのです。日本女性の臓器別がん死亡率を見ると大腸がんが 1 位だといえます。これは高齢者が中心で、35~60 歳代の壮年期では乳がんが圧倒的に多いのです。年間では武道館いっぱいの女性が命を落としているのです。

けれど、正しい知識を持って検診を行い、早期発見につとめれば治る病気でもあるのです。もし誰かに「これって何のリボン？」と聞かれたら、その意味を教えてあげてください。小さな一つのリボンが誰かの命を救う大きな役目を果たすかもしれないから。

### **▼体験談▼**

「この硬いものは……何!?!」。右胸の上部、指先に触れた米粒大のしこり。2006 年 9 月、46 歳のときのことです。実はそれまで、一度も乳がん検診を受けていませんでした。身内にがんの人はおらず、自分もいたって健康、仕事も忙しく……。しかし 10 歳上の友人が乳がんにかかったことで急に身近な病気になり、初めて自己チェックしたその日に、しこりを見つけてしまったのです。

まさか、と思いながら地元で受診。その後、がん診療に定評のある A 病院で受けた精密検査ではマンモと超音波、血液検査のみで組織診は行わず、「良性」と告げられました。3 か月毎の経過観察でしたが、「良性」という言葉にすっかり安心していたのです。

ところが半年後の 07 年 4 月、主治医から突然「悪性になった」と告げられたのです。「先生、今、何とおっしゃいました?」。私は 2 度も主治医にそう問いただしました。良性と言われていたものが急に悪性になるはずはありませんから……。しかしそのとき初めて組織診を行い、やはり「悪性」と確定診断されました。

それから、2007 年 5 月迄、がんセンターにてお世話になりましたが、セカンドオピニオンを求め、縁があり辿り着いたのが「亀田メディカルセンター」(千葉県鴨川市) でした。



## セカンドオピニオンで転院を決意

驚いたのは医療機器の違い、サーモグラフィー（がんは新生血管ができるので体温が高くなる）、PET-CT など。

もう少し早ければ「凍結法」という選択肢もあったことなど。

亀田メディカルセンターの電子カルテは自宅PC、携帯からも自由にアクセスし見ることができま  
す。（但し、一定の手続きが必要）

PET-CT、レントゲン、マンモ、エコーなどデータ画像も見られます。

「PLANETカルテ」（プラネットカルテ）と呼んでおり、

これを利用することにより、病気に対する理解を深め、更なる参加型医療を可能にするシステムで  
す。カルテをよく見て、良く理解し、わかりやすい医療サービスを受ける事が目的です。但し、「カ  
ルテには大変厳しい現実が書かれていることもあります」という前置きもありました。

下記の写真のように個室（病室）備え付けのPCからアクセスできました。

デスクトップメニューには「セルフチェック」もあり、

検査内容、クスリ（処方箋説明）、本日の治療スケジュールなどがあり、

実にきめこまやかに自己チェックすることができました。

カルテ記入者はチーム医療メンバーのドクター（主治医、担当医、麻酔科医、放射線科医、ジュニ  
アレジデント）だけではなく、薬剤師、管理栄養士、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、  
看護師がそれぞれ書き込んでいます。

ですから、回診後のドクターのやりとり、カンファレンス後の報告事項などもわかります。患者記  
入欄もあり、入院中は率直に疑問点、感想など様々なことを書き込んでいました。

オーシャンビューの快適な個室。

病さえなければリゾート気分なのですが。。。

ベッド上の飾り棚の中に酸素吸入器など、  
諸々の機器があります。

医療機器を見えなくする工夫が施されてい  
ます。

女性専用のこのフロアにはエステサロン、ネイルサロンもありました。



マンモグラフィ検査（乳房X線検査）では10%ほどの見落としがあるそうです。なぜなら日本で  
はマンモグラフィ読影資格認定医がまだまだ不足しているから。ネットで「マンモグラフィ検診精  
度管理中央委員会」と検索すると認定医のリストとその病院がわかります。

それから、がんというものは、なって初めて判ったのですが、治療費が高い。

薬代がとても高価なものということです。

代替医療ではほとんどが自費診療です。

（私の場合、術前ひと月の温熱療法が30万円かかりました）

ちなみに昨年一年間の医療費は49万円でした。薬代と検査費で。

私の実体験から皆様には今一度、ガン保険の見直しをされることをお勧めします。

検診と安心は何よりの養生ですし、命に値段はつけられませんから。